

カルメル

靈性センターニュース



2024年12月

414号

## 目次

目次	1
心の泉	2
通信深読お申込みのご案内	23
カルメル会の企画案内	24
東京	25
京都	27
名古屋	31
諸所の企画案内	32
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	36

# 心の泉



宇治カルメル会修道院



## 第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

### 第三章 しばしば聖体を拝領するのはよいことである

#### 4 信じがたい寛容

おお、私たちに対するあなたの信じがたいほどの寛容を、何にたとえるべきなのでしょう。主なる神であり、すべての霊の創造主であり、それを保つお方であるあなたが、貧しい靈魂にまで下り、そのすべての神性と人性とをもって、靈魂の飢えを満たしてくださるとは！

神を敬虔に拝領し、その拝領することによって霊的な喜びに満たされる心と魂はなんと幸せなことでしょう。その靈魂は偉大な主を受け、尊い客をもてなすことでしょう。喜ばしい仲間、忠実な友、あらゆる愛する者にまさって愛すべきもの、あらゆる慕わしいものにまさって慕わしいお方をいただくことでしょう。もっとも甘美な愛する者よ、天にある美しいもの、地にある美しいものすべては、み前にあって、沈黙せよ。なぜならこれらのよいもの、たたえるべきものは、あなたの愛の賜物であり、そのみ名の輝きの「知恵ははかりがたく」(詩編 147・5)、そこに到達することは不可能なのです。》

### 第四章 敬虔に聖体を拝領する者には、豊かに善が与えられる

#### 1 子

《主なる私の神よ、「先にあなたの甘美な祝福をそそいで」(詩編 21・4)、あなたの尊い秘跡に、ふさわしく近づかせてください。私の心をあなたによって燃え立たせ、私のもの憂さを捨てさせ、「救いの恵みをもって私を訪れてください」(詩編 106・4)。そうすれば私は、この聖なる秘跡に泉のようにある甘美さを、魂に味わい得るでしょう。

また、これほどまでに大なる神秘を悟り得るように、私の目を照らし、それを固く信じられるように強めてください。それは人間の力によるのではなく、あなたのみ業です。天使の知恵さえもおよばないこの事実を、人は自分の知恵だけで理解することも、会得することもできるはずがありません。まして、みじめな罪人であり、塵芥にすぎない私(創世記 18・27 参照)が、この深く聖なる神秘を理解できるのでしょうか？

#### 2 薬と健康

主よ、私は、心の単純さとまじりけのない堅固な信仰と、あなたの命令に従う希望と尊敬とをもってあなたに近づき、神として人間として、あなたがこの秘跡においてになることを確かに信じます。

私があなただけを受け、愛によって一致することをあなたは望んでおられます。ですから私は、あなたのあわれみを乞い願ひ、特別な恵みをお与えくださるよう祈ります。わたしがあなたのなかに完全に溶けこみ、あなたへの愛に満ちあふれ、ほかのどんな慰めにも目を向けることのないようにしてください。この最高に尊い秘跡は、魂と体の救い、霊的な病気の薬であって、これによって私の悪は治され、邪欲は抑えられ、いざないは敗北し、または滅ぼされ、恵み豊かになり、徳はますます芽生え、信仰は強められ、希望は強められ、愛徳は熱くなり、そして広がるのです。



ご降誕の祝日に向かって時間は流れてゆきます。待降節に入るとすぐ8日は、「救い主の母となるマリアの無原罪」の祝日を祝います。24日にはいよいよ聖なる扉が開かれ、聖年が始まります。

「私たちの母マリア、あなたは今この時に私たちの心に重くのしかかる全世界の悲しみと困難をご存知です。私たちはあなたに眼差しをむけ、救い主の母のみ心に私たちを委ねます。私たちの叫びをお聞きください。」



### テレーズ列聖百周年へ向けて

おお 幼いイエスさま！ 私の唯一の宝  
私はあなたの神的気まぐれに身を委ねます。  
あなたをほほ笑ませる喜び それ以外の喜びを  
私は望みません。  
～テレーズ～

### 主よ、来てください！

日々の生活のざわめきの中で、  
幼子の呼びかけを聞き分けることができますように・・・  
よい待降節とご降誕をお迎えください。



伊従 信子 (いより のぶこ)  
ノートルダム・ド・ヴィ

フランシスコ教皇の言葉 ⑧

恐れやあきらめ、失望に押しつぶされないようにしなさい。  
あなたがどん底と思う場所からでさえ生まれ変われるようにと、  
神は飼葉桶の中で生まれたのです。

世界中でクリスマスをお祝っています。仏教国である日本でも同じで、幼稚園の園長先生の集いでしょうか、お寺のお坊さんが神父さんにむかって、「おたくでもクリスマスをお祝いしますか？」と聞いたという笑い話もあるくらいです。宗教や民族や国家の枠を超えて、キリストの誕生が祝われています。

さて、世の救い主が誕生された場所は飼葉桶でした。現代人は牧歌的で清らかな情景を思い浮かべますが、よく見れば、「馬のしとする枕元」です。人間にとっては「どん底」と思われるような場所で、牛や馬といった、人間以下の家畜同然の状態でお生まれになったのです。現代でしたら、地震や豪雨、戦争や飢饉で家や故郷を失った被災者や難民の姿に重なります。実にキリストは、温かで快適な部屋ではなく、寒く不衛生な場所でお生まれになったのです。

それは、まさに教皇様がおっしゃるとおり、だれもが「恐れやあきらめ、失望に押しつぶされないように」、人間としては最低の状態でお生まれになり、そのような境遇にいる人々が、そのどん底から「生まれ変われるようにと」、神が願われたからではないでしょうか。 (P. 九里)

## 十字架の聖ヨハネのこぼれ話（196）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### まったきヒューマニズム

十字架のヨハネは、人間的なものと神的なものに関するこの種の主張のより確固とした論理的な基礎を、彼の大きな作品『暗夜』第2部11章4節に置いています。そこには、まったきヒューマニズムというテーマで、稀有な一頁が見出されます。その中で人間的なものは神的なもの、最も優美な人間性は、もっとも崇高で洗練された聖性と調和するのです。それ以前の章（とりわけ5～9章）では、霊の受動的暗夜にいる者が通り過ぎなければならない言語を絶する試練について何らかのことを語るために、十字架のヨハネは、聖書の中でももっとも悲惨でもっとも強烈なテキスト、すなわち、ヨブの書、エレミアの哀歌、ヨナの予言、詩編の少なからぬ箇所を頼らざるを得ませんでした。たとえば、あまり長くならないように、少しだけご紹介します。

ヨブ：私はかつては豊かで金持ちであったのに、突然衰え、悔い改める者となっている…

エレミア：私はあなたの憤りの鞭によって自分の貧しさを知る者となっている…

ヨナ：あなたは、私を海の中の深みに投げ込まれた…

ダビデ：死のうめきが私を取り囲む…

ヨハネは、このような調子で、またもっと痛々しい箇所でも、霊の暗夜の「恐るべき特質」と呼ぶものに触れています。そして、もう少し光や喜びを望む者のように、こう言っています。「靈魂のこれらの悲しい事柄から離れて、今はもう、その涙の実や、幸いなその特質について語り始めるのがよいであろう。」（『暗夜』第2部10章10節）

最も幸いな特質や最も大きな喜びは、疑いもなく、霊の中で徐々に増していく、愛する者を恋慕う心や、その「愛が燃え上がること」でしょう。

（続く）

P. 九里訳

## 待降節 第1主日

(ルカ21：25-28、34-36)

待降節を迎えて師走に入り、教会の暦は一般の暦より1か月早く、新年を迎えました。今年も主の到来を待ち望む時期となり、待降節の始まりでは、世の終わりの主の到来を待ち望む、終末的な余韻を残しながら、主のご降誕への歩みを進めて参ります。

今日の福音は、太陽と月と星に徴が現れる・・・と終末の時の有様についてイエスは語られます。天体に徴が現れ、天体が揺り動かされ、人の子が栄光を帯びて雲に乗って来られるのを人々は見る。このようなことが起こり始めると、あなたがたの解放の時は近いからだと言われ、終末の時のことに注意を払う様にと促されます。

イエスがこの世に来られたのは、人々を滅ぼすためではなく、人々を救うためでした。救われるように滅びないようにと、弟子たちに留意するよう促されます。放縦や深酒や生活の煩いで、心が鈍くならないよう注意しなさいと。また世の終わりの艱難から逃れ、人の子の前に立つことができるようにとも。いつ世の終わりが来たとしても良いように、いつも目を覚まして祈りなさいということなのでしょうね。

イエスは弟子たちに対し、世の終わりが近づいた時の有様を述べ、注意し、人の子の前に立つことができるように言われました。これらは弟子たちに言われた言葉ですが、ご自分の言葉が書き記され、後世に伝えられ、書物として聖書として、今語られる言葉として、人々に伝えられることを思い、望まれ、今日私たちに聖書のみことばを通して語られ、私たちはその言葉に耳を傾けています。

私たちは、今をどのように生きているのでしょうか。心が鈍くなっていないでしょうか。いつ神様のみもとに召されても良いように、いつ世の終わりが到来しても良いように、私たちは準備ができていますでしょうか。この準備をしつつ、新しい年、神の子イエスの到来を待ち望み、良い準備のうちに主の降誕を迎えることができますように。

(Fr. 古川利雅)



## 待降節 第2主日 (C)

(ルカ3：1－6)

自分たちを改めて振り返り、福音で示されている模範に合わせて自分の生活を変えるために、教会は私たちに新しい年をまた与えてくれました。待降節はキリストの訪れを準備する時です。クリスマスの外面的な準備だけではなく、内省して悔い改める準備をする時でもあります。今日の福音は、キリストをふさわしくお迎えするためにどんな準備をするべきか？という問いへの答えです。つまり、私たちは、悔い改め、罪を償い、そして主の到来を準備する道を整える必要があります。

私たちは社会構造や教会や世界の変化を好みます。洗礼者ヨハネの言葉を借りると、谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされ、曲がった道はまっすぐに、でこぼこの道は平らにされなければなりません。福音は私たちに変化を促します。私たちは、ニュースを通じて、大勢の人が暗闇、憎しみ、敵意、戦争という谷の中をさまよひ、そして数多くの人が搾取され、迫害され、不当な扱いを受けていることを見聞きする中で、変化の必要性を痛感しています。今日の福音では、洗礼者ヨハネは変化を訴えます。自分自身の変化です。

洗礼者ヨハネは、「行け。他者を悔い改めさせよ」とは言わず、「あなた自身が悔い改めよ」と言います。私たちはまず自分を変えて正しい方向に向かう生き方をするための回心が必要なのです。罪とは、神から離れることであり、回心とは、神に向かうことです。罪は、神との関係性と人との関係性を壊します。回心は、神と人との関係性を再構築してくれます。罪は人を罰するものであり、回心は癒しをもたらします。この聖なる季節にあたり、主をお迎えする心の準備をしようではありませんか。

神は、主の道を整えるために洗礼者ヨハネを呼んだように、今日私たち一人ひとりをも神と協力して救いのわざを続けるように招いています。さあ、まずは私たちの回心からはじめましょう。

*(Sr. Paulina)*

## 待降節 第3主日（C年）

（ルカ3：10－18）

洗礼者ヨハネは「罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた」とあります。そのメッセージはキリストとはちょっと違って、「毒蛇の子らよ、差し迫った神の怒りを免れると誰が教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。斧はすでに木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はみな、切り倒され、火に投げ込まれる。」という裁きの告知と共になされる宣教でした。それを聞いた人々が、「それでは私たちはどうすればよいのですか」と尋ねました。

洗礼者ヨハネの答えは、何か突拍子もない業を行えとか、今までに罪の報いとしてこれだけの償いを果たさなければならぬとか、そのようなものではなく、至極当たり前のこと、律法に立ち返れというものでした。

洗礼者ヨハネは、「罪の赦しを得させるための、悔い改めの洗礼」を宣べ伝えました。イエス・キリストは「罪の赦しを得させるために、聖霊と火による洗礼」を実行しました。洗礼者ヨハネはキリストの準備です。イエス・キリストは、「私が来たのは正しい人ではなく、罪びとを招くためである」と言ったからといって、罪の状態を何とも思わず、回心しなくてもよいと言っているわけではありません。確かに聖霊と火による洗礼は頑なな心をも突き抜けて人を変えるでしょう。しかし、それでも洗礼者ヨハネは、キリストの洗礼の恵みを完全にする準備として、まず律法に立ち返る回心を説きます。確かに完全に愛に生ききれない罪を抱えている人間は、律法を完全に生きることにはできないでしょう。しかし、愛の掟、命の掟である律法に立ち返ろうとする姿勢がなければ、たとえ神の恵みが来ても背を向けてしまうだろうと説いていると思います。

イエス・キリストの降誕を準備する時、私たちが神の業と声と出会うことができるように、まず、愛を、いのちを生きたいという回心がなされるように、洗礼者ヨハネの声に耳を傾けましょう。

（P. 志村）

## 待降節 第4主日(C)

(ルカ 2 : 30 - 45)

「わたしの主のお母さまが

わたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょうか」

本日は待降節の最後の日曜日です。本日の福音で、イエスのお母様であるマリア様は、主がおいでになったときどのようにお迎えしたらよいかを私たちに教えてくださっています。マリア様は、自主的に「急いで」山国にあるユダの町へ行きます。ザカリアの家に入り、エリザベトに挨拶しました。エリザベトは「私の主のお母様」と呼びます。イエスにはすでに「主」という称号が与えられています。それでマリアの訪問をうけてエリザベトの胎内の子は喜び踊るのです。エリザベトとエリザベトの胎内の子はマリアの胎内のイエスの存在を認めていました。一方で、マリアは彼女自身の無力を認め、神の驚異をマグニフィカト・マリアの歌の中で賛美しました。これがマリアとエリザベトの聖なる出会いの瞬間であり、マリアとエリザベトを通してのヨハネとイエスの出会いの喜ばしい瞬間でもあります。この出会いには喜びと祝福があります。二人とも自分たちが最も重要な人物とは感じていませんでした。むしろ彼らは神を誉め讃えました。エリザベトはマリアを讃え、マリアは神を賛美しました。二人とも神の偉大さと憐れみを歌います。

私たちが、自分の人生の中で様々な人と出会います。必ずしも私たちのお金や物品を必要なものではありません。私たちの愛情や友情を必要としている人もいます。私たちが近くにいることで慰めや癒しをもたたらすこともあります。自分自身を他者に多く与えればそれだけ、お返しを受けます。他者をしあわせにすればそれだけ自分自身を楽しくさせます。

待降節は、たぶん自分の真の自己を理解させ、神に向かうようにさせるために与えられているのでしょう。心を開いて他者に寛大でありましょう。そうすれば私たちも神と他者との出会いのわくわくするような感動を経験するでしょう。

病気の人や、困難にある人に何か直接助けをするために、やさしい寛大な心を持つことができますように三位一体の神に祈りましょう。

( Sr. Pauline )

## 聖 家 族

(ルカ2：41－52)

今年は「主のご降誕」をお祝いした後、最初の殉教者聖ステファノ、聖ヨハネ使徒福音記者、聖なる幼子殉教者、そして主日を迎えて「聖家族」をお祝いいたします。今日の「みことば」ですが、十二歳になったイエスが両親、マリア、ヨゼフとともに、過越し祭のため、ナザレからエルサレムへと旅をされた時の出来事が語られています。大きな祭りへの旅。それは家族だけでなく、親類や知人たち大勢の人との旅でした。

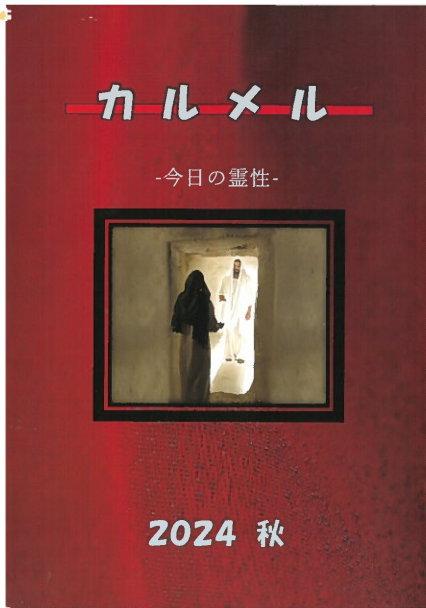
祭りの期間が終わって帰路につきますが、一緒に旅する人の中にイエスがおられるとっておられたのでしょうか、イエスがエルサレムに残っていたことに気づかなかったマリアとヨセフ。故郷に戻る際、日中の移動が終わって宿泊場所に着き、家族が一緒になろうとした時、イエスがいないとわかって、着いた場所で親類や知人の間を捜し回り、エルサレムに引き返し、その道中でも捜し、エルサレムでも捜して、ようやく三日後にイエスを神殿の境内で見つけることになりました。

学者たちの真ん中に座って、話を聞いて質問をするイエスを見て両親は驚きました。マリアは、なぜこの様にしたのか、自分もヨセフも心配して捜していたと告げますが、イエスは、どうして私を捜したのか、自分の父の家にいるのは当たり前ということを、知らなかったのかと答えられ、両親はイエスの言葉の意味が分からなかったと様ですが、「母はこれらのことをすべて心に納めていた。」と心に納めて思い巡らしてゆかれます。

神のなさる事柄を、人は理解できないことは多いでしょうか。マリアは受胎告知の折に、天使を通して告げられたこと、イエス誕生の際に、羊飼いが話した不思議なことなど、心に納め歩まれました。ヨセフは夢で天使のお告げで語られた通りマリアを迎え入れ、神の独り子が人となってこの世に生まれ、イエス、マリア、ヨセフ、聖家族はその歩みを進めてゆかれました。

神に信頼しながら、様々な出来事を心に納めて歩んでゆく聖家族の姿を見つめながら、私たちも様々な出来事を心に納めつつ、神への信頼のうちに歩むことができますように。イエスが両親に仕えて生き、神と人ともに愛された様に、私たちも自分の家族を大切に、家族の一員として互いを大切に、歩むことができますように。

(Fr. 古川利雅)



## 2024年 秋号 No.394

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと  
十字架の聖ヨハネ(7) 鶴岡賀雄

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性

—創造における神の想い、意図 志村 武

テレーズ列聖百周年に向けて

—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(3)  
伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から

ラウダート・シ=神のいのちへの道(3) 椿 権三

風に吹かれて再び(9)—貧しさと豊かさ 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(11) 九里 彰

霊的研究会講義録(25)—聖書・祈り・愛について  
奥村一郎

## 2024年 四旬節特別号

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ  
信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)

聖テレーズ生誕 150 周年記念 教皇  
フランシスコ使徒的勸告「信頼」に導かれて

わたしは愛になりましょう

—愛の道を飛んでいくために 今泉 健

詩「むしられたバラ」より

—テレジアの愛の道 九里 彰

テレーズの信頼の道・小さい道と

ヤコブ・イスラエルにおける小さい道 志村 武

現代の闇を照らす灯火

—テレーズの進行の試練 片山 はるひ

小さな 偉大さ

伊従 信子

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・  
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円 (+送料 140円) を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を  
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2024年10月12日

## スペイン:イエスの聖テレサの墓と遺体の検査



イエスの聖テレサの墓と遺骨の調査は、2024年8月28日の朝、スペインのアルバ・デ・トルメスで始まりしました。それは、バチカン列聖省から派遣されたイタリアの専門家により監督されました。調査の分析は、体の状態と、体の一部(心臓と腕)で構成される「主要な遺物」に焦点を当てて行われ、その結果今後の「保存」と「崇敬」が保証されます。

列聖要請側の代表司祭マルコ・キエーザ神父は、イエスの聖テレジアの遺体は、1914年に最後に見られたときと同じままであることを確認しました。また彼は、まだ調査を完了していないので結果について詳細を述べるのは時期尚早であると述べました。彼は、「跣足カルメル修道会は、この調査を実行することが適切であると信じており、さらなる研究の後、私たちに結論を与えるのは専門家である」と述べました。この調査研究から、テレサに関する非常に興味深いデータを見つけ、遺物の保存方法についてアドバイスを得られることが予想されますが、それは今後の調査段階で提供されます。またこの機会に聖遺物箱は清掃されます。

聖テレサの墓と聖遺物の調査の第一段階は、8月30日の午後に完了しました。マルコ・キエーザ神父は、「ルイジ・カパッソ教授が率いるこの科学者チー

ムは、イエスの聖テレサの聖遺物箱の保存状態が並外れていると私たちに教えてくれました。アルバ・デ・トルメスの墓の現場で行われたこのプロセスの第一段階は、すでに完了しています。第2段階は、イタリアの研究所での検査から始まり、これには数か月かかります。2025年中に結論が出て、その後、アルバ・デ・トルメスで第3段階の調査が実施されます。」と述べました。

聖女の晩年の健康状態に関する最初のデータが明らかになり、それによると、この墓の現場での第一段階から、医療チームは聖女が非常に脆弱な体質であったと結論付けました。人生の最後の数年間、聖女は背骨の顕著な湾曲状態で歩いていました。このような湾曲は通常、背骨の椎骨の弱さによるものであり、骨折を引き起こします。医療チームは、聖女が骨粗鬆症は患っていないことを示しましたが、その脊椎の椎骨の変形は、少なくとも聖女の人生の最後の数年間、呼吸を困難にしていたと思われます。

また医学的観点から、この最初の検査では、聖女は左膝の関節炎リウマチに苦しんでいることがわかりました。聖女は人生の最後の数年間、歩くときに痛みを引き起こす足の痛みを苦しんでいたと推測されます。またこの分析は、彼女の左腕に骨折はなく、手首に脱臼があったことを示しています。そのため、何かができるようになるまでには、何ヶ月もかかります。しかし、当時のメディナ・デル・カンポの治療師と助手は、聖女の肩関節から腕を引っ張って、脱臼をむき出しにしまいました。言い換えれば、その時の治療法は病気よりも悪くしたのです。そのため聖女の腕は過去5年間役に立たないままでした。この腕の問題は、聖テレジア自身の著作と列福の証言に文書化されています。

(訳・注:小宮山延子)



# いのちの言葉 12月

神にできないことは何一つない<sup>1</sup>

(ルカによる福音書 1・37)

受胎告知の場面。天使ガブリエルは、ナザレに住むマリアを訪れ、神のご計画を知らせます。それは、マリアが身ごもって、イエスと名付けられる男の子を産むことになる。そして「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と呼ばれる」<sup>2</sup>だろう、というご計画です。

旧約聖書には、子を産めない女や年取った女が奇跡的に授かった子らが、救いの歴史における重要な役割を果たす、というエピソードがいくつかあります。マリアの受胎告知もそうした一連の出来事に連なるものです。

マリアはこの場面で自問するかのよう to 問います。「メシアの母になる」という使命に、応じたい。けれども、自分はまだ乙女なのに、一体どうしてそのようなことが起こりうるのか、と。マリアの問いに、天使ガブリエルは答えます。人間のわざではなく、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを覆う」<sup>3</sup>、「神にできないことは何一つない」<sup>4</sup>と。

**神にできないことは何一つない。**

この言葉の意味は、神が宣言されたこと、約束されたことで実現しないことは何一つない、ということ——神に不可能なことは何もないゆえに——ですが、次のように言い換えることもできます。神と共になら何一つ不可能なことはない、と。

原文のギリシア語には「神と共に、近くに、一緒に」といったニュアンスがあり、神が人間の近くにおられることを強調しています。人が、神と共に生き、神の声に耳を傾けるなら、不可能なことは何もないのです。

**神にできないことは何一つない。**

このいのちの言葉を、どのように実践したらよいでしょうか。何よりもまず、神は私たちの限界や弱さの内に、またそれらを超えて働かれると、安心して信じていることでしょう。たとえ、人生の深い暗闇の中にも、そこでも神はお働きになるということ。

これはまさにディートリッヒ・ボンヘッフアーが体験したことでした。彼は最終的に処刑されることになる獄中であって、こう書いています。

「神が約束され、成就なさることが何かを認識するには、私たちは常にイエスの生涯、言葉、行為、苦難、そして死の内に自らを浸さなければならない。確か



なことは……神に不可能なことは存在しないがゆえに、私たちに不可能なことは何も無い、ということだ。

……確かに、何も期待すべきではないが、どんなことも願うことができる。私たちの喜びは苦難の中に、生は死の中に隠されている……神はキリストにおいて、こうしたすべてに『然り』と『アーメン』を言われた。この『然り』と『アーメン』とが、私たちの立つ固い地盤なのだ」<sup>5</sup>と。

### 神にできないことは何一つない。

不完全な私たちにとって不可能に見えることを乗り越えようとするとき、あるいは言動一致の人生を目指すとき、その実現に決定的な役割を果たすのは、共同体的なあり方です。イエスに従う人たちが、個人的にも、共同体としてもイエスの託した新しい掟を実践するなら、そこには復活したキリストの力強い存在が生まれるからです。

キアラ・ルービックは 1948 年に修道者の青年たちに宛てて、次のように書いています。「皆で前進しましょう。卑屈で脆い私たちの力に頼るのではなく、一致の持つ全能の力とともに。私たちの間におられる神は、不可能なことを成し遂げられる、奇跡を起こされることを、私は目の当たりにしてきました。私たちが受けた使命に忠実であり続けるならば……この世は一致を目にし、神のみ国の完全な姿を目の当たりにすることになるのです」<sup>6</sup>と。

私（筆者）は以前アフリカに暮らしていたとき、キリスト者として生きたいと願う青年たちとよく会っていました。彼らは信仰の務めや福音の教えに忠実であろうと努めていましたが、日々大変な困難にぶちあたっていました。何時間も語り合い、最後にはいつも同じ結論に行きついたものです。「自分たちだけでは不可能だが、一緒なら可能になる」と。

イエスご自身もそれを保証してくださっています。「二人または三人がわたしの名（愛）によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」<sup>7</sup>と。

### アウグスト・パーロディ・レイエスといのちの言葉編纂チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. ルカ 1・32
3. ルカ 1・35
4. ルカ 1・37
5. D. ボンヘッファー、「抵抗と信従」pp. 278-279（該当箇所編訳）  
（邦訳：ボンヘッファー著、獄中書簡集「抵抗と信従」増補新版 新教出版社）  
ディートリッヒ・ボンヘッファー（1906-1945）はナチズムに抵抗したドイツのルーテル教会神学者・牧師。
6. C.ルービック「Lettere dei primi tempi（初期の手紙、未邦訳）」p.164、チッタノーバ社、ローマ、2010年
7. マタイ 18・20

連絡先：フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812  
E-mail:tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



## 書籍案内

### 生きる意味

#### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
  - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
  - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
  - 4 脱原発の倫理／久保文彦
  - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
  - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
  - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
  - 8 関係の倫理学／清水正之
  - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
  - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
  - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
  - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
  - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

# 愛と英知の道

—すべての人のための靈性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰  
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した靈性生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 智恵(1)
- 第2章 智恵(2)
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と(空)

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 (愛のうちにある)
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した靈性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

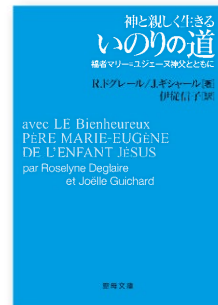
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドグレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



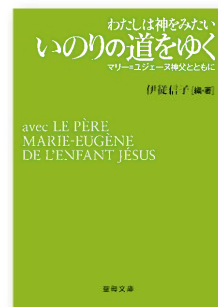
わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

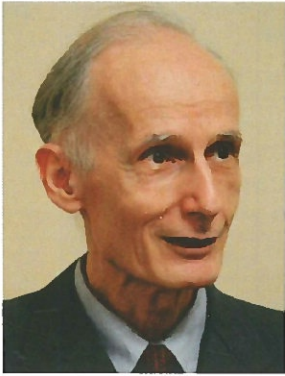
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b>	定価(本体+税)
	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b>	
	日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b>	
	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b>	
	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b>	
	信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館 〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166  
http://www.chisen.co.jp



## 朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

### ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

### セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

### サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

### フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

\* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

\* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

\* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）



## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*  
(2024年4月～)

- ・ 聖書深読黙想会 (土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士  
2024年  
4月 20日～21日  
5月 25日～26日  
7月 27日～28日  
9月 28日～29日  
11月 9日～10日 **中止**  
→11月 30日～12月 1日  
2025年  
1月 11日～12日  
3月 15日～16日
- ・ 奉獻生活者のための黙想会 (初日 17時～最終日朝食) カルメル会士  
2024年 8月 16日 (金)～25日 (日) **中止**  
12月 27日 (金)～1月 5日 (日)

★教会の祈り (時課の祈り) を軸とした 黙想の場を提供いたします。

### 【ご利用に際して】

- ・ 介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・ 上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・ 個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・ 部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : [mokusou\\_kmng@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou_kmng@carmel-monastery.jp)

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



## 宇治カルメル会 黙想会案内

(2024年12月～2025年3月)

**【一般のための黙想】** 1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父  
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

**【聖書深読】** (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2025年

1月11日 3月15日

**【水曜黙想会】** (午前10時～午後4時) 中川博道神父

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

**【カルメルの霊性】** (午後5時～午後4時)

十字架の聖ヨハネ 12月21日(土)～22日(日) 中川博道神父

**【祈りの学校 入門編】** (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

12月3日

**追加** 2025年

1月7日 2月4日 3月25日

**【祈りの学校 教会の祈り】** (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

12月19日

**追加** 2025年

1月23日 2月13日 3月20日

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時～午前9時)

2024年

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父(一般可)

2025年

3月4日(火)～13日(木) 中川博道神父(一般可)

**【青年男女のための黙想会】**（35歳以下） 松田浩一神父

**追加** 2025年

3月22日(土)午後5時～23日(日)午後5時

(日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定)

教皇文書：『信頼への道』

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)  
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)  
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 「祈りの学校」(2025年1月-3月)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(カトリック教会の祈り)：1月7日(火) 2月4日(火)、3月25日(火)、

\*日時(典礼憲章・啓示憲章)：1月23日(木)、2月13日(木)、

3月20日(木)、

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導：松田浩一 神父(男子カルメル修道会)

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ(\*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7457

E-mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

## カトリック教会 カルメル 青年たちの学び

### リジュアの聖テレーズの『信頼への道』

日時：③ 2025年3月22日（土）PM5時～3月23日（日）PM5時  
（尚、日曜日4時から女子カルメル会でミサの予定）

教皇文書：『信頼への道』



イエスのテレサ



リジュアのテレーズ



十字架のヨハネ

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対 象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性  
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年12月21日（14：30～16：30）

サムエル記の全体構造とメッセージ②

その後の日程：2025年1月18日、2月15日、3月15日

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

---

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年12月14日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：志村武神父

テーマ：十字架の聖ヨハネの詩『暗夜』とアブラハムの信仰の深まり

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）

以降の日程：3月8日（今泉健神父）



# 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## テーマ 真の幸せへの道 「…あなたがたは喜びで満たされる」 (ヨハネ16.24)

毎月第2木曜日(10:00~15:00)  
予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」(ソットコルノラ・フランコ神父)  
2月8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」(ソットコルノラ・フランコ神父)  
3月14日 心の貧しい人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)  
4月11日 悲しむ人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)  
5月9日 柔和な人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)  
6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)  
7月11日 憐れみ深い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)  
8月 休み  
9月12日 心の清い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)  
10月10日 平和を実現する人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)  
11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである  
(コデノッティ・クラウディオ神父)  
12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。(コデノッティ・クラウディオ神父)



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦

1391-7

e-mail: [shinmeizan@gmail.com](mailto:shinmeizan@gmail.com)

[www.shinmeizan.com](http://www.shinmeizan.com)

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
フォローアップ	1/19(日) 9:30～17:00	Fr. 植栗	シャルトル聖パウロ 修道女会九段修道院 (千代田区九段北)	来間(くるま) 裕美子※ TEL:090-5325-2518 sadhana79878@gmail.com *メールアドレスが変更 ました
名古屋 サダナⅡ *両方の週末に継 続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	聖霊会八事修道院 ミッションセンター (名古屋市昭和区)	攪上(かくあげ) 暁子 TEL:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
名古屋 サダナⅡ *両方の週末に継 続参加が必要	1/25(土)9:30～ 26日(日)18:00 2/1(土)9:30～ 2(日)18:00	同上	同上	同上
サダナⅡ	2/7(金)17:30～ 11日(火・祝)16:00	同上	都内施設 (受付にお問合せください)	来間(くるま) 裕美子※
サダナⅠ	2/21(金)17:30～ 24(月・祝)16:00	同上	同上	同上
札幌 サダナⅠ	3/7(金)9:30～ 9(日)(金)18:00	同上	札幌 カトリックセンター (札幌市中央区)	本間 攝子 TEL080-3260-1864 本間不在時 山崎有紀 TEL090-4720-2157

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax: 042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



# 祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アビラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンston神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 13:30から

次回の予定: 1月16日

「第4章 神秘主義と愛」

2025年度スケジュール

1月16日、3月13日、5月15日、7月10日、9月18日、11月20日

主催: 慈しみ深き会

指導: <sup>くのり</sup>九里 彰神父(カルメル修道会)

\* 参加費無料(献金歓迎)

\* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00~20:00)

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送終了のお知らせ \*

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、  
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は  
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック  
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。  
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457

[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

